

2020.12.5

紙つぶて

「新型うつ病」という言葉を見かけるようになってからかなりたつ。私は「新型うつ病」などというものは存在しないと考えているし、日本うつ病学会も同じ見解である。

「新型うつ病」という言葉は、従来型のうつ病と違い、主に自責よりも他責が前面に出る、仕事は休むがデイズニードに行ける、など「自分勝手」な特徴が目立つケースで使われるようだ。

うつ病と診断されるためには、ほぼ一日中、ほぼ毎日続く抑うつ状態の存在が必要である。「休みの日にはデイズニードに行ける」ということだけを見ても、その状態はうつ病ではない。仕事に関することだけに症状が出るのであれば、そ

「新型うつ病」

水島 広子

れは適応障害と診断されるべきものである。

「新型うつ病」という間違った概念の流布によって、うつ病で本当に苦しむ人たちの悩みが軽視されつつあることが最も問題だ。「本当は自分勝手なだけではないのか」は、うつ病の症状として本人に現れる苦しい認知であり、治療のためには「自分勝手なのではなく病気」という理解を深める必要がある。世界保健機関(WHO)の調査でも、うつ病は疾病負荷の重さで上位を占める深刻な健康問題だ。人命にも関わる。軽視すると当事者だけでなく社会全体から生産性を奪ってしまう。こんなところまで「自己責任」が持ち込まれないよう、啓発に努めるべきだ。(精神科医)